

SDGs と エネルギー基本計画

～3年に1度の見直しから始まるパワーシフト～

わたしたちの暮らしに大切な電気。その発電所の原材料は、どこから来ているのか。持続可能な電力システムを一緒につくりませんか？
知って、学んで、電気をつかって社会をかえよう！

7/27 配布資料（わじき）

7/27_電気の生い立ちを知ろう。

1. GPPのわじきが不思議に思う電気の歴史
2. 原料調達から廃棄まで
3. 電気の生い立ち



8/24_核燃料サイクルは回らない。

1. 石油の時代とオイルショック
2. 石油備蓄基地
3. 核燃料サイクルとは

9/28_エネルギー関連法を知ろう。

1. 電気料金の内訳
2. 電源三法交付金
3. エネルギー基本計画

tue.18:00~20:00 GPPstudy

話す人：竹村さん（GPP代表取締役）

定員：99名／参加費：無料／会場：Zoom（前日に接続先を送付）

進行：わじき（GPPスタッフ）／主催：グリーンピープルズパワー株式会社

Green People's Power

グリーンピープルズパワーは
再生可能エネルギー100%電気のお届けを目指す電力会社です

SDGs Wedding cake

Environment 環境



Society 社会



Economy 経済



7/27_電気の生い立ちを知ろう。

18:00 (15分+Q&A10分) お話：わじき

1. わじきが不思議に思う電気の歴史

資源エネルギー庁【日本のエネルギー、150年の歴史】、
総合資源エネルギー調査会基本政策分科会、前回のパブコメ
SDGsウェディングケーキについて

18:25 (15分+Q&A10分) お話：竹村さん

2. 原料調達から廃棄まで

再エネの現状、カーボンフットプリント、CO₂の排出量、
原料の現場ウラン鉱山、バイオマス

18:50 (15分+Q&A10分) お話：竹村さん

3. 電気の生い立ち

電源種別

19:15 (10分+休憩) 進行：わじき

4. 今、できることを書いてみよう。

19:30 (15分) 進行：わじき

5. 発表してみよう(任意)

19:45 6. まとめと次回

1. わじきが不思議に思う電気の歴史（その1）

資源エネルギー庁 【日本のエネルギー、150年の歴史】より

- ① 日本の近代エネルギー産業は、文明開化と共に産声を上げた
- ② 【国の屋台骨として、エネルギー産業は国家の管理下に
- ③ エネルギー革命の時代。主役は石炭から石油へ交代し、原子力発電やLPガスも
- ④ 2度のオイルショックを経て、エネルギー政策の見直しが進む
- ⑤ 「地球温暖化対策」と「電力・ガス自由化」が始まる
- ⑥ 震災と原発事故をのりこえ、エネルギーの未来に向けて

上の記事を読んでいると、電気をつかった便利な暮らしの背景に、大量消費、大量生産、環境破壊、戦争、外交などが関係している。。電気への依存度がどんどん高くなっている気がする。。

1. わじきが不思議に思う電気の歴史（その2）

経産省・資源エネルギー庁の審議会

毎年、審議会や研究会の数が増えている。。

新しい制度をつくるのに、今ある法律や省令に基づいている。。

その法律や省令は、時代にあっているのだろうか。。

開催通知

▶ 経済産業省の審議会開催案内はこちら 

(総合資源エネルギー調査会以外の審議会も含まれます)

総合資源エネルギー調査会 部会・分科会一覧

総会

基本政策分科会

省エネルギー・新エネルギー分科会

資源・燃料分科会

電力・ガス事業分科会

調達価格等算定委員会

調達価格等算定委員会

研究会・検討会等

エネルギー情勢懇談会

その他、各種研究会・検討会等はこちら(経済産業省WEBサイト) 

総合資源エネルギー調査会

基本政策分科会

※委員名簿は各回の配付資料参照

▶ 第46回 基本政策分科会(経済産業省ライブ配信チャンネル) 

▶ 閲覧できない場合はこちらをご確認ください 

▶ エネルギー政策に関する「意見箱」

▶ 発電コスト検証に当たっての情報提供依頼

▼ 再生可能エネルギー主力電源化制度改革小委員会

▼ 持続可能な電力システム構築小委員会

▼ 発電コスト検証ワーキンググループ

▼ 長期エネルギー需給見通し小委員会

▼ 再生可能エネルギー導入促進関連制度改革小委員会

令和3年度

令和3年7月21日 第46回

配布資料

1. わじきが不思議に思う電気の歴史（その3）

前回のパブコメ（第5次エネルギー基本計画策定に向けたパブリックコメントの結果について）

意見番号	寄せられた御意見の概要	御意見に対する考え方
22	<p>地産地消型の発電システムを主体とすべきである</p> <p>再生可能エネルギーの地産地消は、緊急時の分散型電源としての期待、農地の活用や里山など森林資源の保全、地域経済の活性化への寄与・雇用創出、など多くのメリットが期待されます。その導入促進にあたって、政策面からの支援を求めます。</p> <p>地元住民と一緒に再生可能エネルギーと地産地消のエネルギーを推進してください。</p> <p>再生可能エネルギーの導入目標を30%以上とし地域分散型へ転換すべきです</p> <p>再生可能エネルギーも、地域と共存し地域に貢献するその地域独自のエネルギーを、分散型エネルギーとして送電網などインフラを整え、「使える」ものに努力をするべきである。</p>	<p>エネルギーを地産地消することができれば、地域の資源が活用され、これが地域の中で循環し、その過程で雇用も生まれるものと認識しています。ご指摘のとおり、エネルギーの地産地消を進めていく上で、再生可能エネルギーをはじめとした分散型電源の導入拡大は重要です。</p> <p>このため、第2章第2節3.において、「地域と共生」しつつ各電源ごとの取組を進めていく旨の記載をさせていただいております。また、第2章第2節10.においては、再生可能エネルギーやコージェネレーションを活用した分散型・地産地消型エネルギーシステムの実現に向けた取組を記載させていただいております。</p>
23	<p>原子力発電をゼロエミッション電源比率の対象とすべきでない</p> <p>ゼロエミッション比率に原子力を算入するのも論外。安全に処理する目的のまったく立っていない高レベル放射性廃棄物を大量に垂れ流す原発に、「ゼロエミッション」ほどふさわしくない名称もない。そもそも、「運転中に」二酸化炭素を発生しないというだけの話で、燃料の採掘・加工・運搬等には結局大量の二酸化炭素を放出することになる。そればかりか、原発の導入を強かに推し進めてきた日本の二酸化炭素排出量はむしろ増加する一方であり、これは二酸化炭素排出量の抑制や増加の低減に成功した国々とは大違いである。</p> <p>原子力をゼロエミッション電源に含めるのをやめるよう強く求める。なぜ原子力がゼロエミッション電源なのか。ゼロエミッション電源を名乗る限り、高レベル放射性廃棄物の処分場建設推進はやめること。</p>	<p>政府が2015年に策定した長期エネルギー需給見通しでは、運転時に温室効果ガスを排出しない再生可能エネルギーと原子力の割合が44%となっており、これは「エネルギー供給事業者による非化石エネルギー源の利用及び化石エネルギー原料の有効な利用の促進に関する法律」第2条第3項に規定する非化石電源の定義、及び第3条に規定する基本方針において電気事業全体の非化石電源導入の目標を44%としていることと整合しております。</p> <p>そのうえで、原子力発電のライフサイクルにおける温室効果ガスの排出量については、例えば、原子力委員会の「原子力利用に関する基本的考え方」において「原子力発電は、既に利用可能な技術の中では、低炭素かつ運転コストが低廉なベースロード電源であり、長期間安定的な原子力発電の利用を確保することが、温室効果ガス削減のみならず国民生活や経済面及び、安定供給面でも必要である」と記載されており、同様の考えは、エネルギー基本計画（案）の第2章第1節3.に「燃料投入量に対するエネルギー出力が圧倒的に大きく、数年にわたって国内保有燃料だけで生産が維持できる低炭素の準国産エネルギー源として、優れた安定供給性と効率性を有しており、運転コストが低廉で変動も少なく、運転時には温室効果ガスの排出もないことから、安全性の確保を大前提に、長期的なエネルギー需給構造の安定性に寄与する重要なベースロード電源である」と記載されております。</p> <p>また、「原子力利用に関する基本的考え方」の参考資料においては、電源ごとのライフサイクルにおける温室効果ガス排出量の分析が引用されており、当該資料には、「ライフサイクルベースで原子力発電は二酸化炭素排出量が少ない」と記載されております。</p>

市民の意見とそれに対する政府の考え方が、かみ合っていないような気がする。。

SDGsウェディングケーキについて

出典：森里川海からはしめる地域つくり
地域循環共生圏構築の手引き
2019年3月 環境省自然環境局

わたしたちの暮らしに大切な電気。

その発電所の原材料は、
どこから来ているのでしょうか。

◇どのような環境に支えられている
 でしょうか。

◇自然と共生しているのでしょうか。

◇どのような循環型社会になっているのでしょうか。

SDGsの達成に向けたアプローチを
参加者と一緒に考える
ワークショップ、はじまります◎

SDGs 達成に向けたアプローチ（手段）としての地域循環共生圏の構築

下の図は SDGs の 17 の目標を 3 層に分類して総合的に整理した「SDGs のウェディングケーキ図」です。「経済」は「社会」に、「社会」は「(自然) 環境」に支えられて成り立つという考え方を示しています。環境・経済・社会の同時解決を図る地域循環共生圏構築の取組が SDGs 達成に向けた優れたアプローチ(手段)となっていることがわかります。

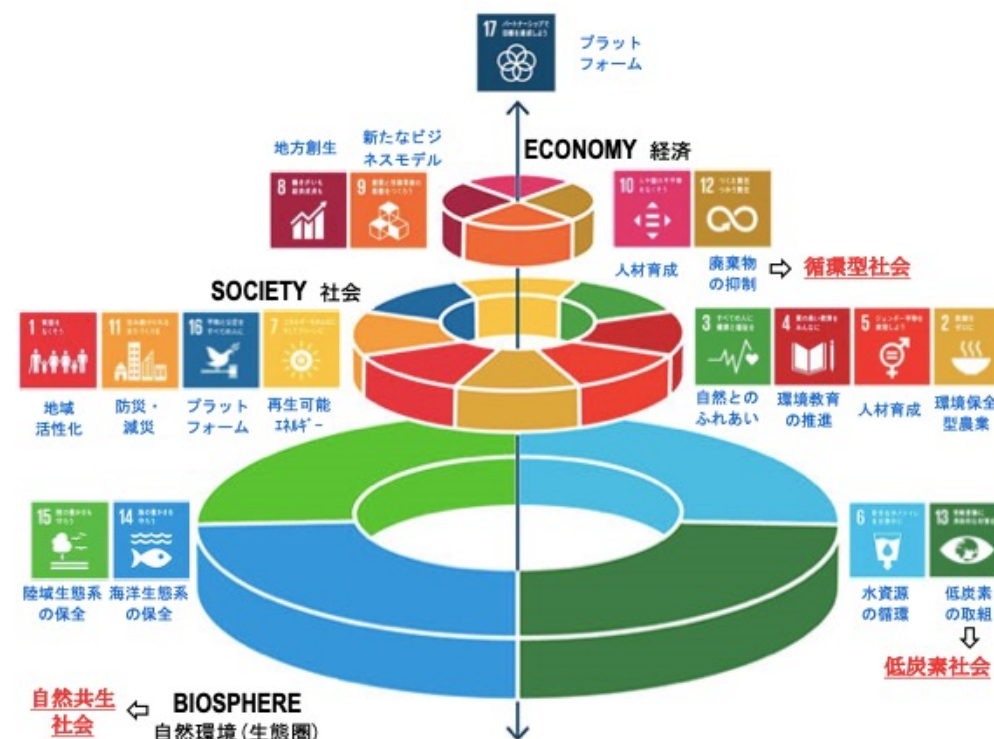


図 2.1-6 SDGs のウェディングケーキ図

(資料：Stockholm Resilience Centre の図に環境省が追記)

2021.07.27

今、できることを書いてみよう。



6
安全な水とトイレ
を世界中に



13
気候変動に
具体的な対策を



14
海の豊さを
守ろう



15
陸の豊さを
守ろう

次回

7/27_電気の生い立ちを知ろう。

1. GPPスタッフが不思議に思う電気の歴史
2. 原料調達から廃棄まで
3. 電気の生い立ち

8/24_核燃料サイクルは回らない。

1. 石油の時代とオイルショック
2. 石油備蓄基地
3. 核燃料サイクルとは



9/28_エネルギー関連法を知ろう。

1. 電気料金の内訳
2. 電源三法交付金
3. エネルギー基本計画

tue.18:00~20:00 GPPstudy

話す人：竹村さん（GPP代表取締役）

定員：99名／参加費：無料／会場：Zoom（前日に接続先を送付）

進行：わじき（GPPスタッフ）／主催：グリーンピープルズパワー株式会社

✉ kouhou@greenpeople.co.jp

【件名：〇/〇 GPPstudy】 【本文：お名前／ふりがな】

☎ 090-2169-9265（担当：わじき）

Green People's Power

グリーンピープルズパワーは
再生可能エネルギー100%電気のお届けを目指す電力会社です

SDGs Wedding cake

Environment 環境



Society 社会



Economy 経済



もう一つ

気候変動対策には、まず省エネ！

～断熱と自然の力で、快適でシンプルな暮らし～

エコな暮らしや
ミニマリスト
を目指す方

GPP
省エネ
学習会

お話し：湯浅 剛さん

省エネで、もっとも重要なのは高い断熱（気密）性能です。ただ日本では普及が遅れています。また冬の日射取得や夏の日射遮蔽、太陽熱の利用によって、エネルギー消費は大きく削減できます。まずは知ること、そして実践へ。ひとりひとりの意識が地球環境を守ります。

8/17 tue.15:00~17:00

出入り自由（申込み制）

定員：99名／参加費：無料／会場：Zoom（前日に接続先を送付）
進行：わじき（GPPスタッフ）／主催：グリーンピープルズパワー株式会社



kouhou@greenpeople.co.jp

【件名：8/17 GPP省エネ学習会】

【本文：お名前／ふりがな】

090-2169-9265（担当：わじき）

Green People's Power

再生可能エネルギー100%電気のお届けを目指す電力会社です



湯浅 剛さん

株式会社アトリエ六曜舎・代表取締役、一般社団法人えねこや・代表理事。1995年、アトリエ六曜舎を妻と設立。2016年、空き家を改装してオフグリッドの事務所とした。一社）えねこやでは、仲間とともに、再エネ・省エネの普及活動を行なっている。



GPPスタッフおおしま
会社員40年の最後の10年で経験した環境とCSRの仕事が生涯の仕事だと感じた。GPPを通じて再エネを普及させることで、地球温暖化を緩和させることができる。そんな、社会に恩返しする仕事に情熱を燃やしている。エシカルな電気をつくって売ることが今の目標。



GPPスタッフわじき
環境配慮型美容師と兼業。自然エネルギー100%の美容室を目指しフリーに転換。さまざまな学びを受け、地球上の電気すべてを、省エネかつ自然エネルギーにしたい！と思っていたところ、GPPとめぐり逢う。